



六中だより

学力を保障し、生徒、保護者、地域から信頼される学校づくり

令和3年12月1日

12月号

新座市立第六中学校

『冬に向かって』

— あかるく・素直に・粘り強く —

校長 田中 悟

葉を落とした木立の中、ヒイラギがっややかな葉を茂らせ、ナンテンやビラカンサが鮮やかな赤色を実らせています。

北国から雪の便りが届く12月となり、2学期もまとめの時期となりました。

体験・経験の価値

新型コロナウイルスの感染者数が下降傾向となり、国においても様々な緩和措置が検討されるようになってきました。

新座市立小中学校においては、「10月16日以降の新座市の教育活動について」（お知らせ）の内容が引き続き運用され、基本的な感染予防対策の徹底が求められております。

第六中学校においても感染予防対策を講じながら「ミニ体育祭」や「川越フィールドワーク」等の活動を展開してまいりました。それらの活動は、学びの条件整備の上に、学習指導として「目標設定に基づく主体的な学びづくり」を、さらに特別活動の取組として「生徒のエネルギーを活用した自治的な活動」を計画的に展開していくことで、「学習指導」「生徒指導」「特別活動」が構造的につながり、相乗効果を発揮して「確かな学力」が生み出されていくと考えられます。

（カリキュラム・マネジメント）

インターネットの発展やスマートフォンの普及等、社会の情報化が進む中で、私たちが利用可能な情報の量は爆発的に増大しています。面倒な計算や簡単な翻訳もIT機器があれば瞬時に終わります。少し複雑なことでも、インターネットで解説してくれる文章や動画を探せば短時間で理解することが可能になります。デジタル化された情報やコンピュータによる簡単な処理については、無償もしくは安価で即座に得られる状況が実現しています。

このような状況下にあっては、「情報の価値」はすぐに下がり、瞬時にゼロに

近づいていきます。相対的に価値が高くなっているのが、「経験や体験」です。試合や発表会などへの参加、演奏やスポーツを行うこと等、「デジタル情報に還元できない経験」に「費用」をかけることは、社会の情報化が進んでも変わることはないと言えます。社会の情報化は情報の価値を下げ、相対的に経験の価値を高めていくという傾向は、今後さらに顕著になっていくことと考えられます。

（『子どものスマホ・SNS』新常識』藤川大祐 著より）

インフルエンザと感染性胃腸炎

寒くなってくると流行するのが、インフルエンザと感染性胃腸炎（ウイルス性胃腸炎）です。どちらのウイルスも感染力が強く、医師の診断により、児童生徒は「出席停止」となります。

厚生労働省は、インフルエンザ予防のキーワードとして、「ワクチン」「手洗い」「マスク」「うがい」をあげています。

これらは新型コロナウイルス感染症予防にも通じる内容となっています。

ご家庭でも充分にご注意ください。

（※詳しくは「保健だより」をご覧ください）

積極的な安全行動 手袋の着用

地域の見守り活動をはじめとして、交通ルールやマナーの遵守等、ご家庭での継続的な指導をありがとうございます。

寒風の中、ポケットに手を入れて歩く生徒の姿を見かけるようになりました。

「とっさの時」に手をつくことができるよう、安全面からも手袋の着用を推奨したいと考えます。また、日没が早くなりました。夕暮れ時には車両からも、歩行者等の対象物が見えにくくなるということです。登下校時はもちろん、帰宅後も、出かける際や自転車利用時には、反射材の使用や明るい色調の着用を心がけることが安全行動につながります。

積極的な安全行動について、ご家庭でもお声かけをお願いいたします。